秋田県立博物館研究報告第40号　71～77ページ　2015年３月
Ann. Rep. Akita Pref. Mus., No.40, 71-77, March 2015

秋田の先覚記念室企画コーナー展「ゲシェーになった男・多田等観～日本人が見たチベット～」展示報告

今川　　拡*

１　はじめに

秋田の先覚記念室（以下、先覚記念室）は、平成８年に秋田県立博物館内に設けられた展示室である。ここでは、明治から昭和にかけて活躍した152名の先覚者たちについて、資料や記録を展示・紹介している。このうち58名が常設展示されており、展示のない先覚者については展示室内の「ふれあいパソコン」や情報資料コーナーの図書等を活用することで、情報が得られるようになっている。

先覚記念室を訪れるのは年配者が比較的多く、自らの思い出と重ね合わせながら、懐かしむように先覚者一人一人の展示をゆっくりと観覧している。一方、セカンドスクール的利用で来館する児童生徒に尋ねると、過去に何度も来館しているが、先覚記念室に入るのは初めてと回答する者が圧倒的に多い。セカンドスクール的利用の際に先覚記念室を見学箇所に入れてもらえるよう、折に触れ働きかけているところである。

平成15年度からは年に１回、先覚記念室中央のスペースにおいて「企画コーナー展」を実施している。今年度は「ゲシェーになった男・多田等観～日本人が見たチベット～」と題して、９月27日（土）から11月30日（日）まで実施した。

２　展示の趣旨

今回取り上げた先覚者は、秋田市土崎出身のチベット仏教研究者多田等観である。今から100年ほど前、危険を冒してチベット入国（以下、入蔵）を果たし、10年に及ぶ修行の後、チベット法王ダライラマ13世よりゲシェー（仏教哲学博士）の学位を授与された。帰国後は膨大な請来資料の研究に邁進した。チベット仏教圏以外の出身者で、ゲシェーとなった者は他に例を見ない。また、帰国後の研究成果はもちろんのこと、多田からチベット語を学んだ者たちが、後にチベット研究の中核をなしたことも高く評価されている。

ここで、秋田での顕彰活動に言及すると、平成４年（1992）に秋田市立赤れんが郷土館（以下、赤れんが郷土館）において「秋田の先人 多田等観資料展」が開催された翌年、地元土崎に多田等観顕彰会が発足した。生前の多田を知る者に語ってもらうという活動が続き、平成12年（2000）に三船毅志氏の筆になる漫画『多田等観』刊行という形で結実した。その後は講演会開催等、散発的な動きが見られたものの、現状は停滞気味であるといわざるを得ない。

平成25年３月、多田の生家である西船寺より当館へ資料の寄贈があった。これを機に、先覚記念室企画コーナー展という形でチベット請来資料等を展示することにより、多田等観の業績を県民に周知できないかと考えた。

展示にあたり、①命の危険さえあった入蔵を果たすまでの苦難の旅路、②現地の寺院で修行し、チベット仏教を血肉とした研究者としての業績、③行く先々で誰からも愛されたという魅力的な人柄、の３つを紹介できるような構成を考えた。また、多田に先行した入蔵者たちの動向を取り上げることにした。

*秋田県立博物館

３　資料調査の経緯

企画コーナー展を行うにあたり、資料調査を実施した箇所は以下の通り。なお、千葉県在住の遺族を直接訪ねることはできなかったが、電話や書簡のやりとりを通じて協力が得られた。

西船寺：軸装の書、書簡ほか
地蔵院：漫画『多田等観』の原画
秋田市立赤れんが郷土館：講演録音テープ
秋田市立土崎小学校：扁額
秋田県立秋田高等学校同窓会館：扁額
秋田県立図書館：新聞マイクロフィルム
秋田県総合教育センター：扁額
井川町立井川中学校：扁額
小畑勇二郎記念館：扁額
花巻市博物館：チベット請来資料ほか
円万寺観音山：一燈庵関係資料
東北大学文学部東洋・日本美術史研究室
：河口慧海関係資料
東北大学総合学術博物館：河口慧海関係資料
東北大学史料館：多田等観書簡
東洋文庫：アジアの格言
国立民族学博物館
：ダライラマ 13 世及び青木文教関係資料
龍谷大学大宮図書館：大谷光瑞関係資料
龍谷ミュージアム：大谷探検隊関係資料

平成 25 年 3 月以降、西船寺より寄贈された資料と、数多くの多田等観関係資料を所蔵する花巻市博物館及び円万寺観音山を守る会からの借用資料を中心に展示するという構想で、調査を進めた。また、東北大学、龍谷大学、国立民族学博物館の協力を得て、多田以外に河口慧海、大谷光瑞や大谷探検隊、ダライラマ 13 世、青木文教について調査した。

４　展示構成

メイン展示は解説パネルと展示ケースをセットとした。その構成は以下の通りである。

（1）生い立ち
・生誕から中学卒業まで　・運命の出会い
漫画『多田等観』原画や大谷光瑞関係資料を展示。

（2）秘密国チベット
・チベット語の習得　・大国の狭間で
肖像写真やポタラ宮殿の写真等、ダライラマ 13 世関係の資料を展示。

（3）ラサをめざして
・入蔵熱　・河口慧海の壮挙
・青木文教の入蔵　・苦難の旅路
河口慧海及び青木文教関係資料のほか、ダライラマ 13 世から授けられた青木と多田のチベット名、西本願寺入蔵命令書等を展示。

（4）ゲシェーとなる
・修行生活のはじまり　・学問僧として
仏像等のチベット仏教関係資料や現地で使用した生活用品等、チベットから持ち帰った資料を展示。

（5）帰国後の足跡
・チベット請来資料　・研究者として
・愛すべき「ニョンバ」
デルゲ版西蔵大蔵経や『西蔵大蔵経総目録』等、研究者としての足跡を伝える資料に加え、家族や高村光太郎との交流を示す資料を展示。さらに目玉の一つとして、昭和 38 年に秋田市で行われた講演のＣＤを再生することにより、多田の肉声を展示室で聴けるようにした。

昨年度の反省から、企画コーナー展の開催をより多くの来館者に認知してもらえるよう、先覚記念室入口の看板付近に「ラサ鳥瞰図」を配置した。メイン展示に先立ち、多田等観自筆の書及び各地で見られる揮毫の写真等を並べた。また、主な地名を入れた大判の「西蔵全図」を配置することで、観覧者が地理的なイメージをもってからメイン展

示へと進んでもらえるようにした。

このほか、展示替えコーナーを活用し、関係資料を２度入れ替えた。特に会期の後半は「本邦初公開　多田家の秘宝」と銘打ち、多田本人及びその遺族がずっと手元に置いて非公開を貫いてきた遺品６点（釈迦如来像、甎仏（せんぶつ）、マニ石ほか）を展示した。

５　広報活動・来館者の動向など

秋田魁新報をはじめとする県内新聞社への取材依頼など、各種メディアでの広報活動を行った。多田の母校にあたる秋田高校の同窓会事務局に協力を要請したところ、企画コーナー展や講演会の情報を、同窓会ホームページから発信することができた。西船寺や地蔵院を通じて関係者に告知する機会が得られたことも大きい。また、定期刊行物の博物館ニュースやホームページ等に関連記事を掲載した。さらに、NPO 法人白瀬南極探検 100 周年記念会主催「資料展示 チャレンジャーたちの軌跡」（９月 20 日～ 23 日、秋田市にぎわい交流館ＡＵ展示ホール）でのパネル展示に協力した。

11 月に入って、秋田魁新報、読売新聞秋田県版、河北新報に記事が出たり、秋田テレビのローカルニュースで放送されたりした影響で、明らかに観覧者が増えた。例年８ページの展示解説資料を作製して展示室に置いているが、昨年より多くの来館者が足を運んだことは、解説資料の減り具合に表れていた。

特筆すべきは講演の音源である。多田が学校で講演した時のことを思い出したと秋田高校や秋田北高校、井川中学校の卒業生が語ってくれたり、ＣＤを最後まで聴くために連日来館した人がいたりと、大変好評であった。

会期中、先覚記念室をセカンドスクール的利用で訪れた１６の学校（小９、中６、高１）には、時間の長短はあれ、何らかの形で解説することができた。とりわけ、多田の母校土崎小学校の児童を相手に解説できたことは、地元の偉人の顕彰という点で大いに意義がある。

６　付帯事業

今回の展示に関連して次の付帯事業を実施した。

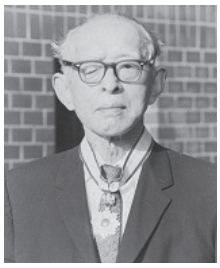
・講演会「多田等観が見た「喇嘛（ラマ）教」―近代日本の異文化体験―」
　実施日：平成 26 年 10 月 12 日（日）
　　14:00 ～ 15:30
　講　師：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員　高本康子氏
　参加者：56 名
　会　場：秋田県立博物館講堂
・展示解説：平成26年９月27日(土)、28日(日)、10月４日(土)、５日(日)、25日(土)、26日(日)、11月８日(土)、９日(日)、22日(土)、23日(日)

講師を務めた高本氏は、平成 22 年（2010）４月から１年間にわたり秋田魁新報紙上に「入蔵者の肖像」を連載した、青木文教及び多田等観研究の第一人者である。資料調査において適切な助言を受けたほか、遺族との折衝において仲介の労をとってもらった。講演では、展示において扱うことのできなかった事柄を、貴重な画像を用いながら解き明かしていた。県外からの参加者もあり、質疑応答では大いに盛り上がりを見せた。

展示解説は会期中の土・日に10回実施し、計40名の参加があった。30分の予定が、回によっては質疑応答を含めて1時間に及ぶこともあった。開展当初は参加者が少なかったが、11月に入りメディアで取り上げられるようになるにつれ増加した。

7　先覚者について

多田等観：明治23年（1890）～昭和42年（1967）



秋田市土崎の西船寺に多田義観の三男として生まれる。秋田中学卒業後、西本願寺に入ると、当時の法主大谷光瑞よりチベット語の習得を命じられる。これがチベットとの出会いとなる。大正2年（1913）、大谷光瑞の命により、苦難の末に入蔵を果たすと、10年にわたって現地の寺院で修行し、ダライラマ13世よりゲシェーの学位を授与された。数々の貴重な資料を携えて帰国した後は、東北帝国大学や東京帝国大学に勤務の傍ら、西蔵大蔵経をはじめとする請来資料の整理・研究にあたり、昭和30年（1955）に、共同研究者らとともに日本学士院賞を受賞した。昭和41年（1966）に勲三等旭日中綬章受章。昭和42年（1967）2月、東京で病没。

8　講演のＣＤについて

会期中、展示室で流した多田等観の肉声は、昭和38年に秋田市で行われた講演会の録音である。オープンリール・テープに録音されていたものを、赤れんが郷土館がカセットテープにダビングした。残念なことに、期日及び会場に関する情報が残されておらず、オリジナル音源も失われている。もはやカセットテープという記録メディアは主流といえず、赤れんが郷土館の許可を得て2枚組のＣＤとした。

70歳を超えた多田等観が秋田なまりを残しつつ、独特の口調で入蔵の経緯やチベットでの生活を語っている。大谷光瑞やダライラマとの率直なやりとりは微笑ましいもので、互いの絆の深さを感じさせる。入蔵直後に立ち寄った集落でダライラマ直筆の入国許可証が通用しなかった場面を語る際は、半世紀の歳月を経ていても、なお悔しさに声が裏返り、直後に咳き込んでしまう。多田の心情まで伝えてくれる貴重な音源である。

背景には時折、自動車の通過音やクラクションの音等が聞こえる一方、不思議なことに目の前にいるはずの聴衆の気配がまったく感じられない。開催期日や会場の件とともに、今後解明が待たれる謎である。

以下に、ＣＤの内容を示す。各トラックは筆者がダビング時に設定したもので、内容に応じて小見出しをつけた。なお、講演内容は、赤れんが郷土館による「秋田の先人 多田等観資料展図録」の37ページから50ページに収録されている。

トラック	ディスク1（64分19秒）	時 間
1	序　※中断あり	0：52
2	1 上洛	2：50
3	2 チベット語習得	11：20
4	3 ダライラマ13世との出会い	12：55
5	4 ブータン縦断	12：10
6	5 チベット入国	8：31
7	6 修行の始まり	10：26
8	7 修行生活	5：15

トラック	ディスク2（63分54秒）	時 間
1	8 修行の終わり	7：49
2	9 秘密国チベット	13：46
3	10 チベットの食	9：24
4	11 チベットの住	6：29
5	12 チベットの衣	5：06
6	13 チベットの政治1	7：35
7	14 チベットの政治2	11：11
8	結び	2：34

９　おわりに

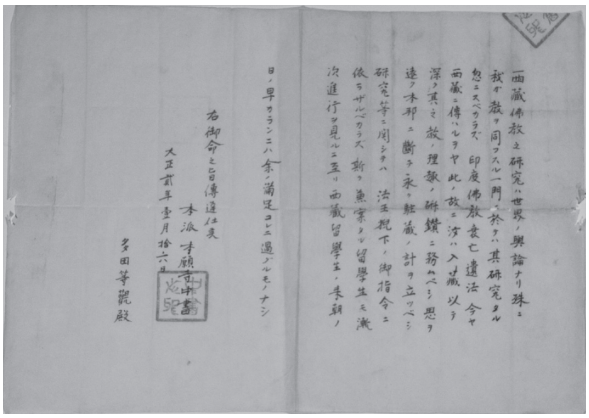
今回の展示では、龍谷大学龍谷ミュージアムとの連携から得たものが大きかった。平成 26 年 4 月から 6 月にかけての特別展「チベットの仏教世界 もうひとつの大谷探検隊」が、多田等観と青木文教の業績に光を当てるものだったことによる。「もうひとつの大谷探検隊」という視点を得たことで、大谷光瑞及び大谷探検隊について調査するきっかけをつかんだ。また、当館の所蔵資料 2 点が出陳依頼を受けたことから、当該資料の重要性を確認することができた。

ことに西本願寺入蔵命令書は、青木文教宛のものが見つかっておらず、２人がチベットとの正式な交換留学生であったことを示す唯一の資料として大変貴重である。発行元として「本派本願寺中書」と記されているが、ここから発せられた文書が他に見られず、研究の余地を残している。

さて、多くの多田等観関係資料が所蔵されている花巻では、花巻市博物館での企画展示以外に、円万寺観音山を守る会による顕彰活動が続けられている。花巻市立湯口小学校 4 年生が行う調べ学習は、多田等観が毎年のテーマだと聞いている。学校の郷土学習から顕彰活動へとつなげる流れは、示唆に富むものである。

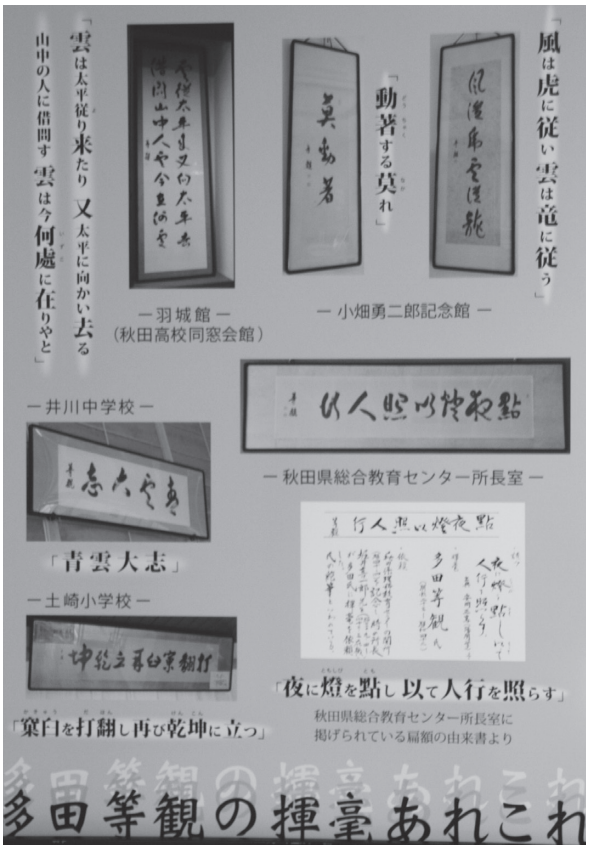
今回の展示をきっかけに、秋田でも顕彰につながる新たな動きがあった。先述の「資料展示 チャレンジャーたちの軌跡」では、第 29 回国民文化祭・あきた 2014 県民参加事業として、白瀬矗や県出身の登山家とともに「探検家」という位置づけで展示された。そして、創立 140 周年を迎えた土崎小学校では校長が折に触れて話題にしてくれたり、秋田高校同窓会館での多田等観パネル展への協力要請があったりといった展開も見られた。

最後に、展示終了後、多田の遺族より膨大な資料が寄贈されたことに触れたい。会期中、「多田家の秘宝」として展示したものを含み、日記や書簡を中心として、総数は 1,800 点近くに及ぶ。今後、それらを整理し、調査・研究しながら、将来公開する機会に備えたい。そして、この場を借りて、遺族をはじめ、この展示に協力いただいた皆さんに感謝の意を表するものである。



西本願寺入蔵命令書

展示室入口に設置したラサ鳥瞰図



揮毫をまとめたパネル

展示資料一覧

整理番号	展示状況	資料名	寸法(縦×横cm)・形状	点数	年代	備考	所蔵先
1	資料	勲三等旭日中綬章	9.0×5.5 箱入	2	1966年11月3日		
2	資料	多田等観肖像写真	40.0×35.0、額装	1	1966年頃		
3	写真	ラサ鳥瞰図	原寸：168.0×134.0	1	1905-1915	下部中央、英文のラサ市略史は青木による	龍谷大学蔵
4	資料	多田等観講演会録音カセットテープ		2	1963	秋田市	赤れんが郷土館蔵
5	資料	漫画『多田等観』原画	Ａ４版	3	2000年		
6	資料	「多田等観様の思い出」菅原亀蔵著	25.7×18.3、冊子	1	1994年3月20日	多田等観顕彰会における講演内容	
7	資料	袈裟	34.0×114.0	1	1911	「明治四十四年三月十日入籍　第百五十一号」、親鸞聖人650回大遠忌の時のもの	
8	写真	光瑞とヘディンの集合写真		1	1911年12月	西本願寺黒書院庭にて	龍谷大学蔵
9	写真	探検指図書	原寸：21.0×26.3	1	1911	第３次大谷探検隊員吉川小一郎あて、大谷光瑞自筆	龍谷大学蔵
10	写真	旅行教範	原寸：25.4×20.3	1	1911	第３次大谷探検隊員吉川小一郎あて、大谷光瑞口述	龍谷大学蔵
11	資料	ダライラマ13世の写真	35.0×45.5（27.0×20.5)、額装	1	1911-1915	ダライラマ13世とチベットの写真	
12	写真	写真　ダライラマ13世	原寸：8.0×9.4	1	1911	青木文教による撮影、インドのクシナガラにて	国立民族学博物館蔵
13	資料	ダライラマ13世の手印・御璽の写真	24.5×30.5（13.5×18.8)、紙焼	1	1923		
14	資料	ポタラ宮殿の写真	24.5×30.5（13.5×18.8)、紙焼	1	1913-1923		
15	資料	筆箱・竹ペン	5.0×31.0×4.0	1	20世紀初	蓋と側面にダライラマ13世による絵	花巻市博物館蔵
16	写真	ノート　初頁冒頭「明治四十五年度旅行日誌」	原寸：20.8×15.5	1	1912-1916	明治45年１月23日神戸港出発の日	国立民族学博物館蔵
17	写真	第２回チベット行に旅立つ慧海		1	1904-1915		個人蔵
18	写真	ダライラマ13世への上書(自筆草稿)	原寸：59.8×47.7	1	1902	チベット文字楷書体	写真提供：東北大学総合学術博物館、撮影：菊地美紀
19	写真	青木文教手帳およびメモ帳	原寸：13.7×7.9ほか	1	1911-1916	ラサ滞在前後の旅程、チベットの暦や気候について	龍谷大学蔵
20	写真	亜細亜大観(青木文教撮影写真集)	原寸：23.0×28.0	1	1927	随筆「西蔵の思ひ出」、モンラム祭の写真と解説	龍谷大学蔵
21	写真	青木撮影の写真「一家眷属」		1	1913-1916	亜細亜大観より	龍谷大学蔵
22	写真	西蔵学修了優待証	原寸：65.5×61.7	1	1915	蔵文文書　英語訳文併記、1915年12月5日付	国立民族学博物館蔵
23	資料	ダライラマ13世押印文書	14.0×41.0、紙本ペン書き、朱印	1	大正時代	青木・多田のチベット名にダライラマの押印	
24	資料	名刺(多田等観)	3.8×7.6	1		インド時代	花巻市博物館蔵
25	資料	西本願寺入蔵命令書	28.0×39.5、紙本墨書	1	1913年1月16日		
26	写真	草稿　『西蔵全誌』	原寸：25.7×18.3	1	1946	原稿用紙計1906枚分、2010年に翻刻出版	国立民族学博物館蔵
27	写真	カリンポンーラサ間の旅程図	原寸：50.3×46.0	1		『西蔵全誌』の付図、翻刻のDVD所収	国立民族学博物館蔵
28	資料	阿弥陀如来像	高37.0× 幅22.0× 奥行17.0	1		チベット由来品	
29	資料	持金剛菩薩坐像	高さ18.5×幅14.1	1	18-19世紀	セラ寺の宝物	花巻市博物館蔵
30	資料	アティーシャ像	高さ15.8×幅11.7	1			花巻市博物館蔵
31	資料	マニ車	長さ29×径8.3	1	20世紀初	携帯用	花巻市博物館蔵
32	資料	五鈷杵	長さ18	1			花巻市博物館蔵
33	資料	３大寺院の写真	24.5×30.5（13.5×18.8)、紙焼	3	1913-1923	ガンデン大寺、セラ大寺、レボン大寺	
34	資料	木椀	直径11.0×高5.0	1	大正時代	遺品、チベットで使用	
35	資料	茶器セット(ポルパ)	最大直径11.5×高16.5	1	大正時代	蓋・茶托(金属製)、茶碗(石製)	
36	資料	チベット茶		1			花巻市博物館蔵
37	資料	インク壺	高さ11.5×幅6.0、銅製、蓋のみ木製	1	20世紀初		花巻市博物館蔵

整理番号	展示状況	資料名	寸法(縦×横cm)・形状	点数	年代	備考	所蔵先
38	資料	鉄鉢	高さ22.0×幅30.0、鉄・真鍮製	1	20世紀初	ダライラマ13世より、三衣とともに	花巻市博物館蔵
39	資料	硬貨		3	大正時代	チベットの硬貨3種(ｼｮｶﾝ、ｼｮﾅ･ｺﾞﾙﾓ、銅貨)	
40	資料	財布	7.5×12.0、毛織物	1	大正時代	遺品	
41	資料	多田等観肖像写真	11.0×7.5、紙焼	1	1923年頃	ラマ僧法衣姿のもの	
42	資料	デルゲ版大蔵経	12.0×62.0×厚10.0	1		印刷された大蔵経の一部、付箋に「八十一」	
43	資料	東北帝国大学　委嘱状	27.7×19.5	1	1925年6月30日	東北帝国大学法文学部印度学研究補助嘱託	
44	資料	講義録(西蔵語文法抄)	26×18.5	1		東京大学時代のテキスト	花巻市博物館蔵
45	資料	『西蔵大蔵経総目録』(東北帝国大学蔵版)	30.5×25.0、箱入書籍	1	1934	目録、索引の2冊セット	
46	資料	日本学士院賞賞状・賞牌	45.0×60.0 額装、直径7.5 箱入	2	1955年5月12日	第141号	
47	資料	日本学士院賞受賞写真		1	1966年11月3日		花巻市博物館蔵
48	資料	食器入り箱膳		1		一燈庵で使用	花巻市博物館蔵
49	資料	観音堂記録		1	1947-1950	円万寺観音山観音堂で保管	円万寺観音山を守る会蔵
50	資料	高村光太郎団扇		1	1947	円万寺観音山観音堂で保管	円万寺観音山を守る会蔵
51	資料	高村光太郎詩集		1	1947	円万寺観音山観音堂で保管	円万寺観音山を守る会蔵
52	資料	高村光太郎葉書		1	1947	円万寺観音山観音堂で保管	円万寺観音山を守る会蔵
53	資料	書簡	折りたたみ状態：9.5×14、広げた状態：18.5×30	1	1952年8月16日付	アメリカより兄覚性宛て、消印17日	
54	資料	葉書		4	1935年２月 1940年６月	娘あて3通、等観宛1通	花巻市博物館蔵
55	資料	写真(ダライラマ14世と)	13.0×9.0	1	1961年春	インド、ダラムサーラにて	個人蔵
56	資料	島地黙雷書「等観三界空無所有」	表具：178×51、本紙：80×38、軸装、箱入	1	1904	明治37年、等観15歳の箱書きあり	
57	資料	多田等観書「南無阿弥陀佛」	表具:164×49.5、本紙:74×34.5、軸装	1			
58	資料	多田等観書「別是一乾坤」	表具：175×38、本紙：86×26、軸装	1			
59	資料	「ドウプカン」喇嘛轉生請願禮讃偈一巻三葉	36.0×63.0、額装	1	1925	大正12年出蔵帰朝記念に刈田儀介氏に贈ったもの	
60	資料	写経　写し	8.5×20、ペン書き	6	1914年 ４月28日付	表裏５枚及び署名１枚、「和田叔母正忌に當り西蔵国聖都拉薩府にて　等観謹写」	
61	資料	釈迦如来像	25.0×20.0×10.0	1		多田家本尊、ツァロン・シャペによる	個人蔵
62	資料	仏像	26.0×22.0×10.0	1		ロントゥル・ラマによる、18世紀	個人蔵
63	資料	四臂観世音菩薩像	13.0×9.0×5.0	1		パンツェンラマ９世作	個人蔵
64	資料	明如上人御染筆	9.0×12.0	1			個人蔵
65	資料	万年筆	5.0×17.0×3.0	1		ダライラマ13世による下賜品	個人蔵
66	資料	マニ石	30.0×40.0×15.0	1		拓本あり	個人蔵